

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都精華大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトセイカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	京都の伝統産業実習
	学部・研究科等名	芸術学部・デザイン学部・マンガ学部
	担当教職員名・役職	佐藤敬二・デザイン学部教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	41
	受入企業等数	21
	受入企業等名	(株)川島織物セルコン、細見綴工房、繡匠 樹田、(株)千總、(有)藤三郎紐、染司よしおか、手漉き造紙工房 風空路、(株)唐長、佐藤木版画工房、清水人形・高橋毅彦、澤村陶哉工房、竹中浩工房、好謙漆工房、竹美齋・石田正一氏、中川木工芸 比良工房、(株)川人象嵌、(株)森本鋳金具製作所、(株)さわの道玄、(株)岡 墨光堂、造園 植治 小川治兵衛、(株)松榮堂
	インターンシップの分類	9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	染織物、陶磁器、漆工芸、竹細工、造園、香など京都の伝統工芸や伝統産業の現場で、プロの職人から直接指導を受けるインターンシップ。1980年度から現在まで継続している、京都の特長を活かしたプログラム。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次・4年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		3単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		芸術学部・デザイン学部・マンガ学部の専門科目として、3・4年次生を対象に、夏季休暇中の2週間の実習および事前・事後授業に参加した者に3単位を付与している。
要素	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	担当教員と学生が事前に受入れ先を訪問し、受入れ先の事業や就業内容を把握するとともに、受入れ先担当者との対話することによりインターンシップの意味や意義について理解を深めておく。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他

③	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	『京都の伝統産業実習報告集』を出版し、関係者に広く報告するとともに、学内のギャラリーにおいて『京都の伝統産業実習展』を開催している。学生は出版と展覧会開催の準備・運営に携わる。
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	まず担当教員のもとで受入れ先の事業内容について調査・研究を行う。マナー講座「アプローチ編」と「実践編」を受講する。担当教員とともに受入れ先を訪問し、受入れ先担当者との対話により、インターンシップの意味や意義についての理解を深めておく。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	2週間のインターンシップを振り返り、『京都の伝統産業実習報告集』に掲載するために、文章・写真・スケッチ・イラストによる「まとめ」を作成し、担当教員に提出する。「伝統実習記録資料」「伝統実習日誌」と合わせて、担当教員とともに再び振り返り、実習の意義と今後の学修について話し合う。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中に担当教員が受入れ先に赴き、先方担当者と学生の双方に、就業状況・進捗状況等について面談を行う。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後に授業評価アンケートにより定量的調査を行い、また事後授業において担当教員との対話で振り返る定性的調査を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入れ先企業・工房において2週間(週休2日・実働10日)のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間の前に担当教員と参加学生が受入れ先を訪問し、受入れ先担当者との三者面談を行い、事業と就業内容の関連、教育的効果や実施目的等について共有する。インターンシップ期間中は受入れ先担当者に学生への評価を日々行っていたり、インターンシップ終了後には総括して大学に評価を報告していただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	京都精華大学
	担当部署名	キャリアデザインセンター
	担当者役職名	センター長
	担当者氏名	福岡 正蔵
	電話番号	075-702-5130
	メールアドレス	fukuoka@kyoto-seika.ac.jp